

# さいたま市教組新聞

さいたま市  
教職員組合  
TEL 641-6763  
FAX 648-3567  
Eメール saitama@kyouiku-net.org  
ホームページ  
http://saitama6763.web.fc2.com/  
2009.2.13(金)  
No.150

## 第2報 割り振り変更簿の使用を徹底 「教育に派遣は問題」市教委認める

市教委との団体交渉の結果の第二報です。

**校長が承知している勤務は変更簿に書く**

【組合】 割り振り変更簿の活用状況を調査すること。全校での100%活用に向けて指導を徹底すること。

【市教委】 「週休日等の割り振り変更簿」は全ての学校で使用されているものと承知しています。今後適切に使用されるよう校長に指導していきます。

【組合】 「小学校は、朝の登校指導を割り振り変更簿に記入させない。学年崩壊状態で学年保護者を夜開いた際も記入させない。(市教委メンバー「それはあり得ない」とばかりに苦笑)

S小学校は校長が一括して記入するとして、教職員に変更簿を配布していない。その他、市教委が調べただけでも数校

が使用していない。学校管理訪問ではどのように指導しているのか。

【市教委】 管理訪問では割り振り変更簿を見ている。記入がない場合は、確認している。校長会では特に「健康管理」と「変更簿の活用」を指導している。

【組合】 市教委の方針が校長に伝わっていない。校長会で、変更簿の使用について具体的に指導する必要がある。

**「英語ノート」使用は各校で決定する**

【組合】 小学五・六年、中学一〜三年で行う英会話の教材・教具を市教委の責任で配布すること。

【市教委】 CD-ROMに教材・教具を保存して配布しました。各校で実態に応じて教材を工夫しているので、全校一律に同じ物を配布する予定はありません。

【組合】

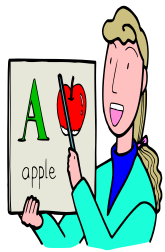
八月の交渉で、「英語ノートは配るが、使用については各校で決める」「保護者が誤解しないよう文書を配布する」と回答した。準備状況は。

【市教委】 今後、文書を出します。

【組合】 英会話で市内のいくつかの学校でALTが何回も変わっている。英会話は人間関係プログラムの一環でしているのに、ALTが定着しないのでは、プログラムの前提が崩れている。派遣は止めるべきだ。

【市教委】 問題点はよく分かる。教育に行革、派遣を持ち込むのがおかしい。子どもが犠牲になっている。

【市教委】 そうですね。でも派遣しかできない。



子どもたちの願いをうけとめ、命を守るために、  
早急に具体的な条件整備の実現を！  
ネットいじめ自殺問題に関わる市教組の見解

市内の女子中学生がネットいじめに関わって、昨年十月に、自殺してということが明らかになりました。本人はもちろん両親や関係する方々の気持ちを考えると本当に胸が痛みます。

この問題を聞いたとき、多くの教職員が、「自分のクラス、学年、学校の子どもたちの悩みやつらさをつかんでいるだろうか?」「子どもたちのために」という思いからであっても、管理的で表面的な指導をしていないだろうか?と自問自答し、携帯電話やインターネットの使い方についても、日頃の指導を振り返りました。

私たちは、忙しい職場の中でも、毎日の教育実践を反省し、悩みながら、目の前の子どもたちと向き合い、「子どもたちがいきいきと活動する楽しい学校」をつくらうとがんばっています。一人では不十分な面があるときでも、仲間といっしょに考え、話し合い、補い合いながら、「子どもたちと本音で話し合いたい」「子どもたちの気持ちに寄りそいたい」と、毎日の教育活動に必死に取り組んでいます。

しかし、市教委の見解では、「目線を低くし、アンテナを高くして...いじめの早期発見」とは言うものの、子どもたちの生きづらさ、超多忙な中で働く教職員の困難な状況、不十分な教育条件整備については述べられていません。今、さいたま市内の小中学校では、病休者の代替が配置されず、「二十人待ち」「十人待ち」という状況が続いており、病休者のいる学校では一人たりない状態のまま教育活動が行なわれています。これでは、子どもたちに目が届かないだけでなく、次の病休者がいつ出てもおかしくない状態です。

また、三十人学級の実現、せめて小学校三年生を三十五人学級にしてほしいという要求に対しても、「三年生を三十五人学級にした場合二億円(市教委の試算)かかるので、市独自では難しい」という回答に終始しています。子どもたちや教職員の命が大切にされていない状況は決して許されません。

学校は 命の大切さをみんな考えて、学び合う場です。そのためには子どもたちと教職員が時間的にも精神的にもゆとりがなければなりません。私たちは今回のような痛ましい出来事が二度と起きないようにするために、さいたま市教委が現場の切実な声に耳を傾け、具体的な教育条件整備に早急に取り組むことを強く求めます。